



中央消防団第7分団

副分団長 川村 光弘 さん

地域に密着した消防団の即戦力

〈執筆著〉 中央消防団第7分団

分団長 高橋 英雄

われわれ、中央消防団第7分団の管轄区域は、中央区西部(旧生田区)の中心に位置し、南はJR元町駅周辺から北は再度山ドライブウェイ・鍬山・市草山・大竜寺までの縦長の地形で、近代的な建物が林立し、六甲山系の豊かな自然を望むことができる地域となっています。

このような環境の下、近年の社会情勢の急激な変化や異常気象によって災害も複雑多様化の傾向にあり、地域住民の団員に対する期待は増々大きくなっています。

このため、地域に密着した消防団が果たす役割は今まで以上に重要となってきたっており、今後とも「自分たちの地域は自分たちで守る」の理念に基づき、訓練、研修などに励み、地域の幅広いニーズに 대응していきたいと考えています。

そんなわが第7分団から、副分団長の川村光弘さんを紹介させていただきます。

川村さんはクリーニング業を営み、仕事に家庭にと多忙な日々を過ごされていますが、それに加えて空手道場を開かれ、地域の子どもたちの心の育成にも尽力されています。

平成9年に入団され、早々に救急インストラクターの資格を取得された川村副分団長



は、そのおかげというわけではありませんが、自身のご家族を心肺蘇生法により救ったと聞いております。

また、一昨年にご結婚され、新婚生活を幸せいっぱいにご過ごしておられます。これからも奥さま(看護師さんです)の力強い後押しを生かし、心肺蘇生法やAED操作はもちろんのこと、小型動力ポンプの点検や運転、各種訓練の指導と、分団員の模範となる力を発揮されると思います。

過去に出場したポンプ操法大会では、1番員の役目を十分に果たされたうえで、隊員の気持ちをひとつにまとめ、結果、チームを大会レコードタイムの記録に導かれました。そのときの驚きと感謝の気持ちを、いまだに忘れられません。今後とも、諸先輩から受け継がれてきた伝統を大切に守りながら、健康に留意していただき、分団内の「活性化」や分団員の活動向上のため、頑張ってください。いと強く思っています。